

## 令和 2 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ カブモト チヅル  
氏名 株 本 千 鶴

研究期間 令和 2 年度

研究課題名 死にゆくことを対象としたコミュニティケア政策の実態  
——韓国を事例とした社会学的研究

## 研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	株 本 千 鶴	人間関係学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

死と死にゆくことを対象とする死の社会学では、死にゆくという社会的行為の近現代的な変容の主な特徴が、共同性の喪失と医療化であることが明らかにされている。この特徴に対して、死にゆくという行為の過程での人々の連帯や脱医療化を志向するケアとして、現代ホスピスや緩和ケアが登場し、現在ではコミュニティケアの一環として世界各国で施策が展開されている。

本研究は東アジアでのその一端を知るために、韓国でのホスピス・緩和ケアに注目し、死にゆくことを対象としたコミュニティケア政策の実態と課題を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

先行研究の収集・検討後、韓国現地で、ホスピス・緩和ケア政策を担当する機関での資料・インタビュー調査、「地域社会統合ケア（コミュニティケア）」のモデル事業（2019 年開始）を実施する自治体での資料・インタビュー調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため実施できなかった。

そのため、科研費研究「死にゆく行為における連帯と脱医療化——韓国ホスピスでの官民協働の役割と課題」（2017-20 年度 基盤研究（C））において収集した文献や資料、2019 年に地域社会統合ケアについて実施した A 自治体での調査結果、インフォーマントやインターネットを通して新たに収集した関連資料を用いて、ホスピス・緩和ケアを中心に、死にゆくことを対象としたコミュニティケア政策の実態と課題を分析した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

社会政策における死にゆくことを対象とした専門的ケアは、主に医療サービスとしてのホスピス・緩和ケアによって提供される。これに関する政策は、「第1次ホスピス・延命医療総合計画(2019～2023)」に基づく。現状としては、ホスピス・緩和ケアの提供形態は入院型中心であるが、政策では、利用者が地域社会で生活しながらサービスを受けられるように、外来型の緩和ケアや在宅ホスピスの拡充が企図されている。発展的な課題として考えられているのは、エンド・オブ・ライフケア戦略の策定である。ホスピス・緩和ケア事業と延命医療決定制度を統合したエンド・オブ・ライフケアでは、高齢者福祉(介護)・保健医療・訪問看護・地域社会でのケアなど、多分野・多事業での協力と連携が基盤となる。この基盤によって、戦略では、疾患や療養場所のいかんにかかわらず、すべての患者や利用者、その家族が、ホスピス・緩和ケアをうけられるシステムづくりが目指される。

死にゆくことを対象とした専門的ケア提供は、社会保障政策の社会サービス分野でも細部課題となっている。具体的には、地域社会統合ケア、すなわち、コミュニティケアのシステム構築事業のなかに位置づけられている。地域社会統合ケア基本計画(2018)を根拠とする本事業では、2019年6月から、限定された地方自治体で「地域社会統合ケア先導事業」が実施されている。対象は、高齢者、障害者、精神疾患患者、ホームレスである。高齢者に対するサービスの一つに在宅ホスピスが想定されているが、現時点ではこれを本格的に実施している自治体は存在しない。医療サービス提供機関との連携や訪問診療の診療報酬化などが進むことによって、コミュニティケアにおけるエンド・オブ・ライフケアの実施が可能になると思われる。

以上のように、韓国でのホスピス・緩和ケアを含むコミュニティケア政策は、サービス提供体制を整備する準備段階にあるといえる。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

① 死にゆくこと	② 韓国	③ホスピス・緩和ケア	④コミュニティケア政策
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

#### 【研究成果】

株本千鶴(2020)「韓国のホスピス・緩和ケア政策——発展・変容・課題」『週刊社会保障』No.3077:42-7.

株本千鶴(2021)「海外事情レポート1 韓国のホスピス・緩和ケア」『緩和ケア』31(1):82-5.

#### 【今後の展望】

新規に申請した2021年度基盤研究(C)の課題「死にゆくことを対象としたコミュニティケア政策における医療の関与——韓国を事例として」が採択された場合、本研究で予定していた韓国での現地調査を実施し、質的研究としての分析を行い、論文として公開する。